



その一言が、あなたという「人間」を決めている

みなさんは最近、自分の口からどんな言葉が出ているか、意識したことはありますか？ 学校の廊下や教室、あるいは登下校の途中で、こんな場面は見られないでしょうか。

- ・ 友達に対して：「死ね」「うざい」「きもい」を冗談半分で連発する。
- ・ 先生に対して：注意されたときに、反抗的な態度をとる。
- ・ 地域の人に対して：マナーを注意されると、カチンときて暴言を吐き捨てる。

「みんな使っているから」「軽いノリだから」「イラッとしたから」——そんな理由で、乱暴な言葉を使っていますか？ 言葉遣いは、単なる「マナー」ではありません。あなたという人間の「価値」や「これからの未来」を決める、とても大切なものです。なぜ言葉遣いがそれほど重要なのか、3つの理由を真剣に話します。

親しき仲にも礼儀あり

友達同士で「うざい」「死ね」と言い合うのが、まるで仲が良い証拠であるかのように勘違いしている人がいます。しかし、言葉は一度口から出したら二度と消せない「矢」です。言っている本人は冗談のつもりでも、言われた友達の心には、確実に小さなトゲが刺さっています。それが積み重なれば、いつか心は壊れてしまいます。本当の友情は、相手を傷つける言葉の上には成り立ちません。

言葉は、あなたを映す「鏡」である

先生や地域の人たちは、なぜみなさんを注意するのでしょうか。それは、みなさんを「一人の大切な人間」として見ているからであり、社会のルールや、危ないことから身を守る方法を教えようとしてくれているからです。それに対して、暴言や反抗的な態度で返すのは、自分の幼さをアピールしているのと同じです。どれだけ勉強ができて、どれだけ部活動で活躍していても、注意された瞬間に乱暴な言葉を返せば、周りの大人は「そういうレベルの低い人なんだな」と判断します。乱暴な言葉は、あなたのこれまでの努力や魅力を一瞬ですべて台無しにしてしまうのです。

大人になるための「境界線」にいるみなさんへ

中学生は、子どもから大人へと脱皮する大切な時期です。小学生の頃は、わがままを言っても「まだ子どもだから」と許されたかもしれません。しかし、中学生になったみなさんは、もう「自分の言葉に責任をもつ」べき年齢にさしかかっています。イラッとしたときこそ、グッとこらえて「すみません」「気をつけます」と言える人こそが、本当に自立した、精神的に強い人です。

自分の言葉に「誇り」をもとう

イライラしたとき、自分の心を防衛するために強い言葉を使いたくなる気持ちは分かります。でも、これからは言葉を「衣替え」してみてください。

- ・ 友達に強い言葉を使いそうになったら ⇒相手を尊重する言葉に変える。
- ・ 先生や地域の人に注意されたら ⇒まず無言で一つ深呼吸をし、「気をつけます」と言う。

言葉を変えれば、あなたの心が変わります。心が変われば、周りの人のあなたを見る目が変わります。学校でも、地域でも、「さすが詫中生、立派だな」と誰もが応援したくなるような、さわやかで強い人へと成長していってくれることを期待しています。

言葉が変われば態度が変わる。態度が変われば行動が変わる。

行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。

人格が変われば運命が変わる。

(ウィリアム・ジェームズ / アメリカの心理学者・哲学者)

人生のすべて(運命)を変える第一歩は、自分が毎日使う「言葉」とであるという有名な言葉です。

